

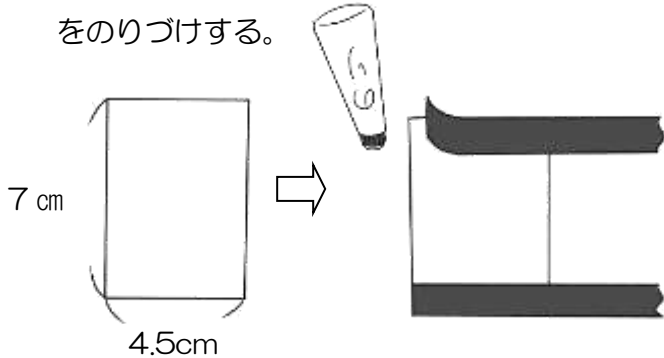
# 伝統遊具づくりからくりびょうぶ

江戸時代からくり屏風というのがあって、屏風を変化させることができる不思議なしくみをもったものが出現し、人々を驚かせました。実際からくりが子どもたちの玩具として登場したのは明治になってからです。

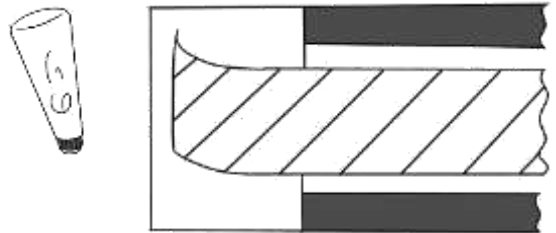
材料：①厚紙 4.5 cm×7 cmを 8 枚、②紙テープ 1.8 cm×37 cmを 2 枚、③画用紙 3.2 cm×37 cmを 1 枚  
 道具：はさみ・のり・サインペン ※長さ等は目安です。

## 《作り方》

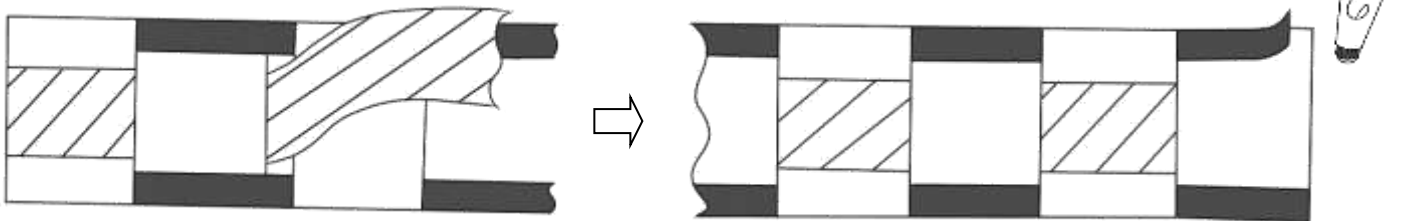
1. 厚紙を一枚用意し、両端(上下)に紙テープをのりづけする。



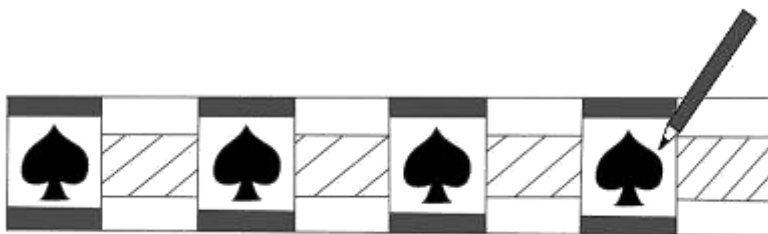
2. 厚紙を裏返し、両端に貼った紙テープの間に、画用紙をはまるようにおき、紙テープと同様にのりづけする。



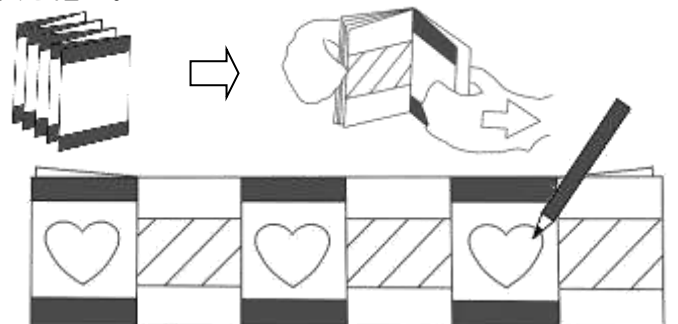
3. のりが乾いたのを確認できたら、厚紙を紙テープと画用紙の間に互い違いに並べる。並べるときに折りたたみにくくならないよう、間をつめすぎないように注意する。最後の厚紙は、最初と同じように紙テープと画用紙をのりづけする。



4. 画用紙の見える帯に、絵を描く。



5. 交互にじゃばら折りのようにたたみ、端の厚紙2枚重ねたまま広げる。また、広げた帯に絵を描く。



## 《遊び方》

広げて絵を見せます。じゃばらに折りたたみ、端の2枚をもって広げると絵が変わっています。裏を見てもはじめの絵は影も形もありません。  
 練習して手品のようにみんなに見せてみましょう！

